

目の錯覚を研究し、視覚のメカニズムを明らかに。

文学部 心理学専攻

北岡明佳 教授

KITAOKA akiyoshi

日常生活で「錯覚」というと「間違い」の一種ですが、心を科学する心理学では、錯覚は重要でおもしろい研究テーマです。私が研究しているのは、錯覚のなかでも視覚性のもので、錯視と呼ばれています。平行な線が平行でなく見えたり、印刷した絵が動いて見えたり、色が実際とは違って見えたりする現象です。この10年ほどで効果の高い錯視图形が多く制作されるようになったので、目にした方もいらっしゃるかもしれません。錯視の研究は視覚のメカニズムを明らかにすることにつながります。最近では、錯視と美術との密接な関係がクローズアップされて、さらにぎやかな研究領域となっています。



心理学専攻

Psychology Major

心理学の諸領域を総合的に学び、社会で活かせる知識とスキルを身につける。

本専攻では心理学の諸領域を融合して学び、人間の行動と心の動きを科学的に理解するための知識と手法の修得をめざします。実験心理学、発達・社会心理学、応用・臨床心理学など多彩なカリキュラムと、基礎と応用の連携を通して心理学の社会的活用をめざします。1・2回生では主に学科共通専門科目の「心理学概論」「実験実習」などで心理学の基礎を学び、3回生からは関心に応じて「認知・情報」「生涯発達」「人格・社会」「行動・環境」といった各分野の専門科目と、それらを社会で実践的に活用するための応用科目を選択して学びます。3回生からはゼミナールに所属し、専門知識、実験手法、論文の構成法など卒業論文の作成に必要な知識と手法を修得します。



SEMINAR 2007年度ゼミナール一覧

宇都宮 博	青年から中高年を主な研究対象とする発達心理学
尾田 政臣	認知心理学(印象・ヒューマンインタフェースなど)に関する実験的研究
北岡 明佳	知覚心理学を主とする実験心理学
佐藤 達哉	教育・社会・発達・心理学史の各領域の研究・フィールドワーク
土田 宣明	「発達」「行動調節」に関する基礎的な研究
服部 雅史	認知心理学(思考・推論・判断など)に関する実験的研究
東山 優規	視空間知覚や触空間知覚(痛みを含む)の研究
藤 健一	ヒトと動物の学習・行動に関する全般的研究
細井 啓子	性格の発達・変容・病理についての研究
星野 祐司	認知心理学的アプローチに基づく記憶・判断の研究
望月 昭	広義の「対人援助」についてその理念から実践までを学ぶ
松田 隆夫	知覚とそれに関連する認知・知能機能に関する実験的研究
武藤 崇	バフォーマンス・マネジメント(応用行動分析)
山本 博樹	生涯学習者の理解支援研究
八木 保樹	社会心理学と人格心理学
吉田 蒼	人が発達する側面・子どもの学びと教育、脳の機能とが交差する領域の研究
岡本 直子	乳幼児の行動観察を中心とした発達心理学的研究
矢藤 優子	乳幼児の行動観察を中心とした発達心理学的研究

Curriculum		
専門科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ 心理学研究入門 心理学演習Ⅰ・Ⅱ 心理学データ解析法	心理学統計法 心理学基礎実験実習 心理学特殊実験実習 心理学外書講読
認知・情報&ヒューマンインターフェース	知覚心理学 認知心理学 学習・記憶心理学	情報処理心理学Ⅰ 情報処理心理学Ⅱ 心理学研究文献講読Ⅰ
生涯発達&ヒューマンケア	生涯発達心理学 児童・青年心理学 発達臨床心理学	乳幼児心理学 中高年心理学 心理学研究文献講読Ⅱ
人格・社会&ヒューマンダイナミクス	人格心理学 社会心理学 応用社会心理学	心理病理学(精神医学) 臨床・カウンセリング心理学 心理学研究文献講読Ⅲ
行動・環境&ヒューマンサービス	比較心理学 行動分析学 環境心理学	パラフィリーのための心理学 応用行動分析学 心理学研究文献講読Ⅳ

※2007年度カリキュラム

主な専門科目

●心理学基礎実験実習

心理学の基礎的な実験・調査・検査の実際を複数のテーマに即して小集団に分かれて順次実習し、データ収集やレポート作成について具体的に学びます。

●心理学特殊実験実習

基礎実験実習などで学んだことを、さらに発展させ、専門の研究レベルの実験をおこなう方法を修得します。

●認知心理学

感覚・知覚・学習・記憶・思考等、人間の心理的処理過程の諸側面について理解を深め、認知心理学の方法や内容、学問的背景などを学びます。

●心理学演習Ⅰ・Ⅱ

I(3回生)では、卒業論文における研究主題の確立のための文献研究発表と討論への参加、II(4回生)では、実験計画の作成と実験の遂行、卒業論文の執筆をおこなう重要な科目です。